

**「ムギ・マメのススメ」
北陸麦・大豆サロン（大豆）
開催概要**

令和5年1月27日 開催

北陸農政局
生産部 生産振興課

北陸麦・大豆サロン（大豆）〈背景〉

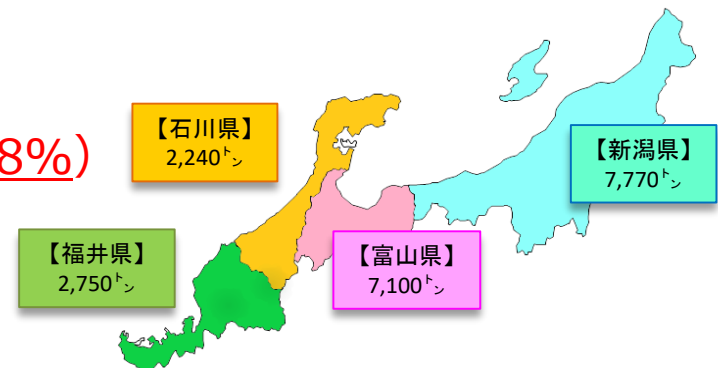
- 主食用米マーケットの縮小が進み、米から需要のある品目への転換が必要。特に、水田率が高い北陸地域においては、麦・大豆の生産拡大への好機。
- 特に、食料自給率が低い大豆については、収量の底上げが必要。
(自給率:7%、食用24% (R3))

- 大豆の国産化には、これまで以上に、国産大豆を活用する実需者との結びつきを拡大するとともに、品質・量・価格等の実需者の要望を満たす大豆を安定供給していくための取組が必要。

- 本サロンでは、北陸産大豆のヘビーユーザーであり、かつ新たな需要である大豆ミートの販売に取り組んでいる事例や、大豆の栽培技術等の工夫についての情報提供を行い、今後の大豆生産を一層推進することを目的に開催。

【北陸の大豆の生産状況 (R3)】

- 全国で146千ha(約247千ト)に対し、北陸では12千ha(約20千ト)と全国シェアはとても低い (8%)
- 10a当たり収量は全国平均と同程度。
北陸平均：170kg/10a
全国平均：169kg/10a



北陸麦・大豆サロン（大豆）＜（株）アサヒコ＞

テーマ

株式会社アサヒコ 購買部長 折原 弘幸氏

北陸産大豆に求めるスペック

【豆腐】

- 品質：高タンパク(目安35%以上)。大豆の風味等に関わるシヨ糖は高い方がよい。
- 品種：里のほほえみ（現在最も取扱いが多い）、リュウホウ、エンレイ等
- 価格：国産はブランド力があるため、品種に見合った価格で安定供給を求める。

【大豆ミート】

- ・現在は輸入大豆で生産しているが、国産大豆の需要が喚起され、一定の顧客が見込まれれば、国産使用も検討。

今後の需要の拡大

- ・輸入原料の高騰や地域ブランド（高付加価値）により、国産大豆の使用量は毎年100t程度増加。
- ・北陸産大豆の需要は、1,300t (R4) → 1,800t (R7)に増加する見込み。また、北陸地域では、現在は新潟県産のみだが、新潟県と同じくらいの生産量がある富山県産の調達も検討。

北陸麦・大豆サロン（大豆） <JA全農にいがた>

テーマ

JA全農にいがた 米穀部 総合対策課 高橋 史明 氏

国産大豆
の需要見
込み

○品目別の需要見込み

- ・ 里のほほえみとエンレイは、**豆腐の加工適性**がよく、新潟県内の用途別の出荷割合では、**豆腐・油揚げが8割以上**を占める。
- ・ **豆腐、納豆、豆乳・大豆ミート**について、消費の拡大が見込まれ、**国産大豆の使用量は増加傾向**。

○実需者からの要望

- ・ 取引先実需者からは、近年、全国的な不作となったことから、毎年安定した大豆の供給が求められており、**安定供給を継続することが実需者との信頼**につながる。

今後の取
組等

- ・ 新潟県内の一部地域では、原因不明の減収や青立ちが見られることから、R5年産に県と県内4か所で、**単収向上のための実証試験**（土壌分析などにより、低収要因と対応策を実証）を行い、農家の手取りの向上を目指す。
- ・ **国産大豆の需要拡大**に向けて、プラントベースフード等の今後伸長が期待できる**新たな加工食品分野における国産商品の定着**を目指す。

北陸麦・大豆サロン(大豆) <中日本農業研究センター>

テーマ

転換畑研究領域 畑輪作システムグループ 大野 智史氏

大豆の安定生産のポイント

○排水対策

・ 周囲明渠などの**地表排水対策**は必須。また、**地下排水対策**は、大区画ほ場ほど重要。北陸地域では**特に融雪時期**に注意が必要。

・ **補助暗渠**や**全層破壊**など下層土の特徴をとらえた効果的な施工方法を選択する。

○肥培管理

・ 土壤に問題があると考えられる圃場を**優先的に土壤診断**し、**適切な肥培管理**を実施。

・ 大豆は根粒により窒素固定できるが、投入した窒素量より持出し分の方が多くなるのが普通であるため、**有機物施用等の土づくり**を心がける。

○病害虫防除

・ **ダイズ黒根腐病**や**ダイズ茎疫病**には有効な薬剤による種子消毒を実施。

・ 品質・収量は、子実を害する虫の方が影響は大きく、**予察情報を参考にして適期防除**。

品種

- ・ 北陸地域は日本海側の気候帯に属するため、天候不順になる**11月収穫とならない品種**を選定。
- ・ 種子更新は忘れずに行う。

北陸麦・大豆サロン（大豆） <まとめ>

サロンで分かったこと

- 1 実需者から求められる北陸産大豆は、豆腐用などの用途別に「品質」と「量」に対応できる生産体制づくりが必要。
- 2 安定供給とは、実需者のニーズ把握と、生産側・実需側の連携を進化させていく必要。
- 3 北陸産大豆の品質、特性をPRしつつ、実需者とのマッチングを通じて進め、大豆産地の団地化形成につなげていくことが必要。
- 4 栽培上の諸課題(青立ち、防除)の解決策や栽培技術の周知を行うことが必要。

安定生産のポイント

- 1 大豆の安定生産には、排水対策と病害虫防除等が重要。北陸の水田で多いダイズ黒根腐病やダイズ茎疫病には有効な薬剤による種子消毒を実施。
- 2 適切な肥培管理による有機物施用(栄養)が重要。

品種の選定

- 1 北陸地域で天候不順になる11月収穫とならない品種を選定。
- 2 難裂莢品種で北陸地域に適しているものは「えんれいのそら」がある。「里のほほえみ」は比較的莢がはじけにくい特性があり、ロット確保の面でも有効。

北陸麦・大豆サロン（大豆）〈アンケート結果〉

※アンケート回答率：約45%

- アンケート回答者の内訳として最も多かったのは、生産者（法人）。
続いて行政、実需者・流通業者・JAの順。
- 今後、更に聞きたい話として、「**大豆の栽培技術（特に青立ち対策、排水対策、防除）**」等の意見があった。

サロンでさらに掘り下げて聞きたかったこと（抜粋）

- 1 **青立ち**の原因と対策（生産者）
（排水対策等を適切に実施していても、青立ちになり収量・品質が低下）
- 2 **排水対策**や**除草対策**（生産者）
- 3 **新品種**の**開発**（生産者）
（「里のほほえみ」の収穫期は11月であるが、11月の晴天率は30%。10月に収穫できる品種開発を望む。）